

2. 学部授業科目

授業科目名 (英文表記)	春夏秋冬の哲学 ～日本近代名作随筆講義～ (An Introduction to Japanese Philosophy : View of Nature)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	天野 雅郎		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 10月5日(土) 13:00～17:00	④ 1月11日(土) 13:00～17:00	
	② 11月16日(土) 13:00～17:00	⑤ 1月25日(土) 13:00～17:00	
	③ 12月7日(土) 13:00～17:00	⑥ 2月15日(土) 13:00～17:00	
【授業のねらい・概要】			
<p>哲学は難しい、という印象を多くの人が持っています。</p> <p>たしかに、哲学は難しく、ひよっとすると全ての学問の中で、もっとも難しい学問であるのかも知れません。が、それと同時に哲学は、いたって易しい、あらゆる人に開かれた学問(と言うよりも、学問以前の学問)であることも事実です。</p> <p>この授業では、そのような哲学の難しさと易しさを、あたかも「茶の湯」(＝茶道)と「日常茶飯」の両面から、お茶を飲み、ご飯を食べるかのように、皆さんに伝えることが叶えば幸いです。</p> <p>テーマには、日本人の自然観と、その美意識を選んでみました。</p> <p>なぜなら、このテーマこそは日本人が、その生活においても人生においても、はなはだ日本的で、日本人らしくある、言ってみれば、日本の社会や文化の原点であるからです。</p> <p>この授業では、そのような日本人の日本人らしさや、逆に、むしろ昨今、失われてしまった感の強い、日本人の特徴的な、本来的な生活観や人生観を振り返り、これを皆さんと共に、見つめ直すことが出来れば、と願っています。</p>			
【授業計画】			
<p>春は曙、やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫立ちたる雲の細く棚引きたる……と、この名調子で始まる「枕草子」の冒頭を、きっと皆さんも、よく知っていらっしゃるに違いありません。</p> <p>日本人は昔から、このようにして春・夏・秋・冬(＝四季)の、それぞれの美しさを、あるいは和歌や俳諧という形(→韻文)で、あるいは物語や随筆という形(→散文)で、さまざまに表現して、今に至ります。</p> <p>この授業では、そのような日本人の文学表現の中から、特に随筆(エッセー)を取り上げ、その魅力を近代以降の、明治から昭和へと至る名作群を通じて振り返りたい、と考えています。</p> <p>あわせて、この文学ジャンルの歴史や特質や、中国文学や西洋文学との違いについても、お話しをする予定です。</p>			
<p>第1回 「日本近代随筆選」(1: 出会いの時) 講読</p> <p>第2回 同上</p> <p>第3回 「日本近代随筆選」(2: 大地の声) 講読</p> <p>第4回 同上</p> <p>第5回 「日本近代随筆選」(3: 思い出の扉) 講読</p> <p>第6回 同上</p>			
【到達目標】			
日本近代の名作随筆を読み、日本人の自然観と、その美意識を知る。			
【教科書】			
「日本近代随筆選」(1～3) 岩波文庫			
【参考書】			
適宜、紹介します。			
【授業時間外学修】			
毎回、テキストの所定の箇所を読んだ上で、授業に参加することが必要です。			
【履修上の注意・メッセージ】			
多くの皆さんの、ご参加を期待します。			